

保護者のみなさまへ

小野市立市場小学校長 井上 雅規

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果考察について

4月17日(木)に全国の小学校6年生を対象に「全国学力・学習状況調査」が実施されました。教科に関する調査〔国語・算数・理科〕、質問紙調査〔学習面・生活面等〕を行いました。その結果を受けまして、本文書のとおり本校の分析・考察を行い、今後の学習指導や生活指導に活用したいと考えております。つきましては、すでに7月中旬に配付の「個人票」及び10月中旬配付の「調査結果・分析リーフレット(小野市教育委員会作成)」とあわせてご覧のうえ、各ご家庭でもご活用いただきますようお願い申し上げます。なお一層のご支援ご協力をどうぞよろしくお願ひいたします。

I 生活・学習状況について(※パーセント数値は、「している」・「どちらかといえばしている」)

◎優れている生活・学習状況

	質問内容	本校	全国
1 基本的な生活習慣	朝食を毎日食べている	95%	93%
	毎日、同じくらいの時刻に寝ている	88%	81%
	毎日、同じくらいの時刻に起きている	97%	91%
2 非認知能力	将来の夢や目標をもっている	95%	93%
	人の役に立つ人間になりたいと思う	100%	96%
3 家庭学習	月曜日～金曜日の1日当たりの勉強時間(1時間以上)	65%	54%
	土曜日、日曜日の1日当たりの勉強時間(1時間以上)	61%	47%
4 読書習慣	月曜日～金曜日の1日当たりの読書時間(10分以上)	86%	53%
	読書が好き	79%	69%
5 地域とのかかわり	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う	88%	81%
6 授業づくり	課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	90%	80%
	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方につなげたりすることができている	93%	84%
	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている	90%	79%
	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる	97%	91%

●課題が残る生活・学習状況

	質問内容	本校	全国
7 自己肯定感	自分には、よいところがあると思う	86%	86%
	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある	90%	93%
8 授業づくり	自分の考えを発表する機会では、自分の考えが上手く伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表した	68%	68%

【考察(生活・学習状況について)】

○【前頭前野の発達による心身の成長】『1 基本的な生活習慣』においては、「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」割合が昨年度より減少しているものの、すべての項目において全国平均を上回っており、児童は、東北大学川島隆太教授提唱の『早寝・早起き・朝ごはん』の習慣が概ね身についています。また、『2 非認知能力』においては、割合が年々高くなってきており、「人の役に立つ人間になりたいと思う」児童は100%でした。このことから、キャリア教育や「夢をかなえる科」という呼称の総合的な学習の時間での取組の成果が表れていると思われます。『3 家庭学習』においては、週末に1時間以上勉強する児童の割合が増えてきており、自主学習や各種テストに向けての計画・実行・振り返り等の取組が学習習慣に結びついていくと思われます。『7 自己肯定感』においては、自分の良さに気づくことや幸福感についての項目で、昨年度及び全国平均と比較して下降傾向にあり課題があると言えます。上記の『2 非認知能力』の項目にある、人のために、また、夢や目標に向かって行動できるような学習をさらに充実させていきたいと思います。総じて、学

校・家庭で継続している『おの検定』・『ひまわりカード(食育調査)』など脳科学理論に基づいた「前頭前野」を発達させるための取組により『学びに向かう力』の意識向上が成果として表れています。

○【知識と感性を育む読書】『4 読書習慣』においては、読書時間や読書に対して肯定的にとらえている児童の割合が、全国平均と比較して高いです。今後も、ゲームや動画視聴の時間を読書に回すことで、『読書脳』を発達させ、本や教科書を読むだけでなくアウトプット(話す・書く・行動する)することも取り入れながら、より「知識」を蓄え、豊かな「感性」を育むことを大切にしていきたいものです。

○【学びに向かう力の育成をめざす家庭学習】『6・8 授業づくり』において、児童は、「課題解決に向け、主体的に考える習慣」が身についていると言えます。一方では、「資料や文章、話の組立てなどを工夫すること」について、できていないと考える児童が多い傾向にあります。南中校区小中一貫教育でも共通理解している、マイスター(発達段階に基づく自主学習ノート)などを含めた家庭学習の内容と時間が大切です。また、ゲーム・スマホ・ネットの使用について「1日1時間以内」「午後9時まで」の約束を守るも大切です。東北大学榎浩平助教が、前頭前野の『自己管理能力』でスマホから身を守ることを提唱されています。今後も継続して家庭学習の充実を図ることが、さらなる学力向上につながります。

2 国語

◎ 優れている問題

- ①【記述】【調べたこと】を元に、チラシを詳しく書き直す。(条件:言葉・字数)
- ②【選択】話し合いの記録の書き表し方の説明を選択する。

● 課題が残る問題

- ①【選択】話し合いの場面において、空欄に入る発言内容を選択する。

3 算数

◎ 優れている問題

- ①【短答】はかりの目盛りを読む
- ②【短答】資料から必要な情報を使って数量の関係を立式し、計算する。

● 課題が残る問題

- ①【選択】「10%増量」は元の量の何倍かを選択する。

4 理科

◎ 優れている問題

- ①ヘチマの花のめしべとおしべと受粉について答える。
- ②直列つなぎについて答える。

● 課題が残る問題

- ①発芽に必要な条件を調べるための解決方法について答える。

【考察(国語・算数・理科)】

○【フィードバックの重要性】どの教科も学習内容を定着させるために、インプット(読む・聞く)とアウトプット(話す・書く・行動する)を繰り返すことはとても大切なことです。さらに、見直し、反省、改善、原因究明といった「フィードバック」をすることで、同じ間違いをしない等、更なる定着を図ることができます。家庭学習の充実は、大きな効果を生みます。

○【的確に伝える力の向上】国語では、基礎学力の定着が見られます。授業において、「対話」「ノート指導」「振り返り」ができているからであると思われます。今後の対策として、物語の主題を見据えた読みを行い、資料を見て、わかることや考えられることなどを話し合う活動を取り入れて授業展開をしていきます。

○【生活場面に根差した授業づくり】算数では、「ふきだし法」等の学習やプログラミング学習の取組により、具体的な場面できまりを見つけ、筋道を立てて発展的に考察する力が定着しています。理科では、「知識・理解」「思考・判断・表現」という観点別においても、「選択式」「短答式」という問題形式においても、全国平均正答率を上回っています。今後も、操作活動や実験・観察を通して、生活場面に根差した児童の興味・関心を引き出す授業づくりに努めていきます。

※「ふきだし法」とは、問題を読んで、わかったことや気づいたこと等を記述し、自分や周りの友達の思考を知ることです。

5 今後の取組について

以上のように保護者や地域の皆様のご指導、ご支援により、市場っ子の生活面や学習面において、概ね良い成果が出ています。これも『家庭学習の充実』及び『水辺の楽校』『登下校見守り隊』『地域行事』等の保護者の皆様、地域の皆様の支えがあってのことだと考えます。さらに、課題を改善していくために学校と家庭、地域が連携して取り組んで参りますので、ご理解、ご協力をよろしくお願ひいたします。